



冬の温泉もいいけれど囲炉裏もいい。  
囲炉裏にはどこか懐かしさや落ち着きのようなものを感じませんか。

そこに、炭火や自在かぎにかかった鉄瓶などあろうものなら、  
ただ見ているだけで温かい気持ちになります。

囲炉裏のある古民家や食事処が人気だと旅の本で読みました。  
確かに憧れます。  
私も昔、囲炉裏がある温泉宿をわざわざ探して旅をしました。  
それも冬を好んで・・・。  
そこには異空間がありました。

そもそも昔の冬の暖は、囲炉裏や炭のコタツ、綿入りの着物。  
囲炉裏は暖房器具なのです。

でも今となっては、暖房器具と呼んでしまうにはあまりにもったいない存在。  
「囲炉裏」

囲炉裏や釜戸は、家を守る神を祭る場と聞いたことがあります。

仕事柄、重要無形文化財などの豪農や館や合掌造りの民家、  
歴史に名を残す〇〇家住宅の古民家を訪ねることが多かった私は、昔のものに興味深々。  
そこで住職の生活を知ることが好きでした。

火を神聖なものとして信仰する思いは  
現代日本人のなかにもまだ根強く残っています。

小正月の賽の神、札を燃やす護摩焚き火など、あげればきりがありません。

囲炉裏を囲んだ厳しいしきたりも聞いてきました。  
家族や客が座る位置は厳密に決められていて  
四角形の囲炉裏で、家族全員が囲炉裏の周囲に座るとき  
土間からいちばん遠く、家の奥に面した席は  
火の神の司祭として家長が座る場所。  
神聖な席とする決まりが厳密に守られてきたのです。

こういった神事的な色合いが薄れ始めても  
囲炉裏は庶民の暮らしの中心にあって、団欒の場、食事の場。  
厨房に加えて、ときには応接セットとしてお客様との社交の場となったり、  
夜なべ仕事の明かりになったり・・・。  
季節により、そして時間帯によって、  
その機能は変幻自在に変わる不思議な空間だったのです。  
消えていった囲炉裏の暖かさ・・・。  
現在では、ごく一部のお宿のチャームポイントとして  
みかけるだけで、ほとんど見られなくなりました。

でもさすが雪国。  
ここには囲炉裏を囲んで、気の置けない友と団欒を楽しむことができる場所があります。

失われつつある古き良きニッポン。  
雪国ならではのしつらえを  
ぜひこの冬に、お楽しみになりませんか。  
静かな静かな時間が流れることでしょう。